

ゼミ活動報告 「ダイドーGHD 第2四半期決算記者発表会」

藤村咲希

8月27日にダイドーグループホールディングスの第2四半期決算記者発表会及び高松社長とのスモールミーティングに行ってきました。

統合報告書の写真やホームページで見ていた、高松社長が目の前に立ち、前の席に多くの記者がいるという風景は、少し張り詰めたような雰囲気緊張しました。

決算発表会では、高松社長から第2四半期のセグメント別の概況説明がありました。コア事業である国内飲料事業は、低価格競争やペットボトルでのコーヒー飲料のブームといった、社会環境の影響が大きく、苦戦していますが、自動販売機の固定費を削減することなどで営業利益を増加させているということや、海外事業ではトルコのリラ安が想定以上である一方、周辺国への輸出を増やすこと



で赤字をカバーしていくということなど、現在のダイドーグループホールディングスが直面している状況についての詳しい説明を聞くことができました。

発表会の中で、缶コーヒー活性化を目指し、新たなターゲットにすべき「精神的ストレス派」を満足させるための新商品、“ダイドーブレンドコーヒーギンレイ”の紹介や、看板ブランドである“ダイドーブレンドコーヒーオリジナル”をリニューアル発売するという発表は驚きましたし、缶コーヒーの市場が縮小している中で、ダイドーグループの缶コーヒーにかける思いは相当大きいのだと感じました。



決算発表会の後、ホテルの会議室に移動し、高松社長とスモールミーティングを行いました。社長が思うダイドーグループの誇れるところは何なのか、社長の悩みはどんなことなのか、社長にとって楽しみなことは何なのかといった、社長にしか聞けないことを多く質問し、それぞれの質問に対して一つ一つ丁寧に答えていただきました。良い人が多いことがダイドーグループの誇れるところだと高松社長が自信をもって答えてくださった姿に、ダイドーグループの良さをひしひしと感じました。1時間のスモールミーティングはあっ

という間でしたが、経営者の考え方を直接知る非常に良い経験ができました。



今回の第2四半期決算記者発表会とスモールミーティングのことを踏まえ、私たちガイドチームはこれからキャッシュフロー予測を行います。レポートを期待していると言われましたので、期待に応えられるような、いや、期待を上回れるようなレポートを書けるよう頑張ります。

最後になりましたが、決算発表会への参加及び、スモールミーティングという貴重な場と時間を提供してくださった高松社長、コーポレートコミュニケーション部の皆様、本当にありがとうございました。



本稿は大阪市立大学商学部宮川研究室ゼミ生の活動報告を目的として本学学生が作成したものです。本稿に掲載される個人名や企業名はご本人のご協力を得て掲載許可をいただいています。ただし、内容については執筆者の主観的感想や主張が入っており、事実とは異なる場合があります。本稿の目的以外にご使用にならないようお願いいたします。